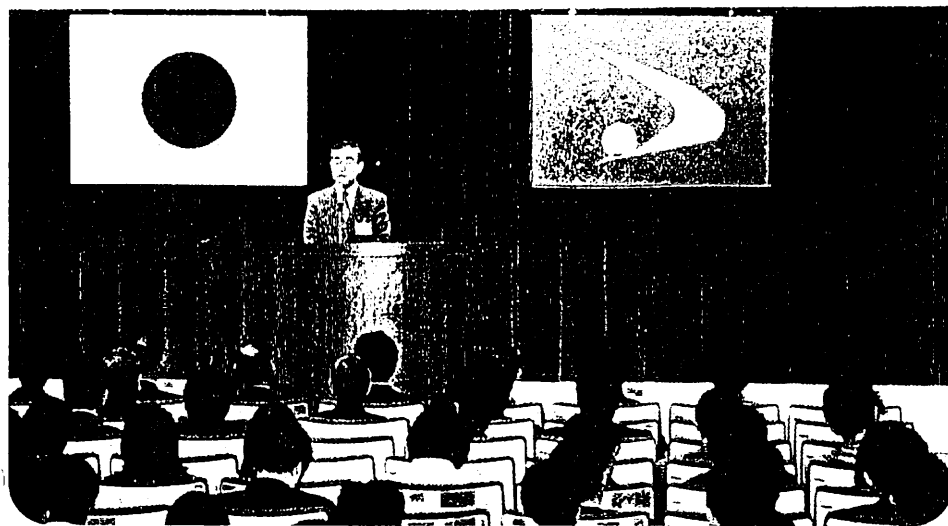


# 11年度 秋田県教育研究奨励賞授賞式 11回 秋田県教育研究発表会



「開会式」であいさつする  
渋谷所長

## ◀ 総合教育センターだより ▶

### ◇—もくじ—◇

- ・第14回秋田県教育研究発表会を  
ふりかえって…………… 1
- ・子供一人一人へのよりよい支援を… 2
- ・平成12年度の研修講座紹介と  
公開講座の案内…………… 3
- ・一年間の研修を終えるに当たって… 3



横手市立鳳中学校の研究発表

平成12年3月14日発行

### 秋田県総合教育センター

〒010-0101 南秋田郡天王町天王追分西29番地の76

TEL 018(873)7200 (代表)

FAX 018(873)7201

ホームページのアドレス

<http://www.edu-c.pref.akita.jp/>

すこやか電話相談 018(873)7206

フリーダイヤル 0120-377804

インターネット接続 018(872)1065

学習指導案 018(873)7210(FAX)

レファレンスサービス

パソコン通信 018(873)7207

# 熱気あふれる二日間

—第14回秋田県教育研究発表会をふりかえって—



次長兼教科研修部長 樋口 勝郎



講演される横山利弘氏

## 参加者延べ1200人を超す

第14回秋田県教育研究発表会は2月9日（水）・10日（木）の二日間にわたり、当総合教育センターで開催されました。

この発表会は、県内の教職員が日々積み重ねてきた研究成果を持ち寄り、発表・交流し合うことで本県教育の振興を図ろうとするものであり、昭和61年から始められました。

今年度の発表会は、天候にも恵まれ、また、新しい試みとして5年経過研修講座、新任研究主任講座とのタイアップ方式を導入したこともあって、参加者は大幅に増加し、二日間で延べ1,244名とこれまでで最大規模の大会となりました。

各会場ともほぼ満席の状態の中、熱のこもった研究発表とそれに続く質疑応答が展開され、活気に満ち、充実した実り多い発表会となりました。

## 研究発表数85本

校種別に見ると、小学校関係31、中学校関係22、高等学校関係10、特殊教育学校関係12、教育機関関係5となっており、幼稚園からの発表も久しぶりに1本ありました。これに当センターの各研修部の発表4を加えますと、発表総数は85本となり、昨年を上回りました。

発表内容としては、ふるさと教育やドリーム支援事業を活用してどのように学校の活性化を図ったかという実践報告、「生きる力」をはぐくむための授業や生徒指導の在り方の探求、「総合的な学習」へ取り組むための基本的考え方の考察など、総じて新教育過程への移行を意識した発表が数多く見られま

した。本県教職員が、時代の変化に柔軟に対応しながら、未来を見据えた研究を着実に推進している姿勢が随所にうかがわれる大会となりました。

また、発表方法もほとんどがプレゼンテーションソフトウェアを使用したものとなり、この点でも新鮮さを感じさせるものでありました。

## 記念講演「これからの心の教育」

今年度は、元文部省教科調査官で現在関西学院大学教授である横山利弘先生から「これからの心の教育」という演題で講演していただきました。

ともすれば堅くて難しい話になりがちな道徳教育について、実に楽しく分かりやすくお話していただき、教えられることの多い感動的な講演でした。

「教師は子供の心を見ぬく力を付けなければ、子供が日々発する心のサインを見落としてしまう」、「外見上の生活の改善に満足することなく、子供の内面にかかわる指導こそが大切である」、「道徳教育の内容項目を抽象的にとらえるのではなく、子供の生活レベルにそって具体的に考えていくべきである」、「心の教育はどの教科でもできる。物事に敏感に気付く子供を育てたい」といったことを豊富な事例を挙げながら話されました。

心の教育の大切さを改めて実感させる素晴らしい講演であり、参加者一同大きな感激に包まれました。

## 総合教育センター各研修部の発表

当センターでは、今年度の基本研究課題を『『生きる力』をはぐくむ豊かで特色ある学校の創造』としました。各研修部では、これに迫るそれぞれのテーマを設定し研究を進めてまいりましたが、このたびは、その概要について発表しました。

研究の詳細につきましては、本年度末に発行されます「研究紀要」を各学校に配布しますので、十分に活用していただけるようお願いいたします。

最後に、発表会が盛会裏に終わることができたことについて、ご協力いただきました関係者の皆様方に心より感謝申し上げます。

# 子供一人一人へのよりよい支援を



特殊教育・相談研修部長 齋藤 孝

昨年8月、「県内小中学校 不登校初めて減少」という新聞記事が掲載された。これは、学校基本調査結果として、平成10年度の不登校（年間30日以上長期欠席による）が、各種対策が功を奏したことによって、平成3年度以降の増加傾向が初めて減少に転じた、という内容である。

たいへん喜ばしい記事ではあるが、県内の小・中学校で合わせて千人近い子供たちが依然として不登校で悩み、苦しんでいるという憂慮すべき状況であり、この数値は小学校では321人に一人、中学校では59人に一人の割合で不登校ということになる。

当教育センターでは、指導・援助事業の一環として「教育相談」を実施している。教育相談は、不登校やいじめ等に関する「生徒指導関係相談」と障害のある子供の就学や教育等に関する「特殊教育関係相談」に分けられる。

また、電話による相談（「すこやか電話相談」）も行っており、幅広く相談に応じている。

今年度、4月から1月までに受理した相談件数のうち来所相談は172件、電話相談は275件である。このうち、生徒指導関係では、不登校に関する相談が来所75件、電話119件と最も多く占めている。

特殊教育関係では、発達の遅れに関する相談が多

く、就学相談や知能検査等の実施、子供の養育や学校での指導の在り方などに関する相談が目立つ。

最近では、学級でうまく適応できない、授業に集中できないなどという子供の相談もみられるようになっており、通常の学級において特別な配慮を要する子供のケースが増えている。

当センターでは、このように多くの相談に当たっているが、教育に関する相談機関の一つとして、保護者及び学校との密接な連携を図りながら、必要とする適切な支援を行うように心掛けている。

例えば、不登校などの場合には、学校でも全職員で子供の状態や症状を受け止め、適切な支援の在り方を探り、きめ細かい子供への対応によって早期に問題を解決してほしいと願っている。

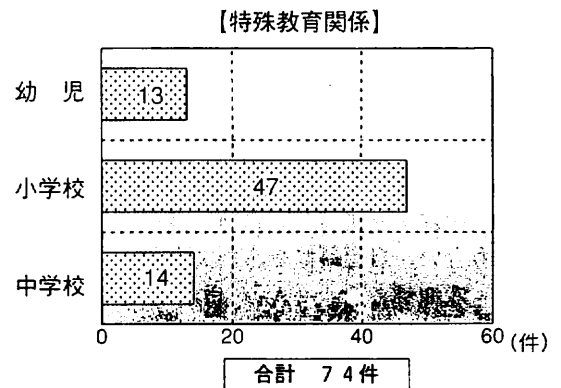
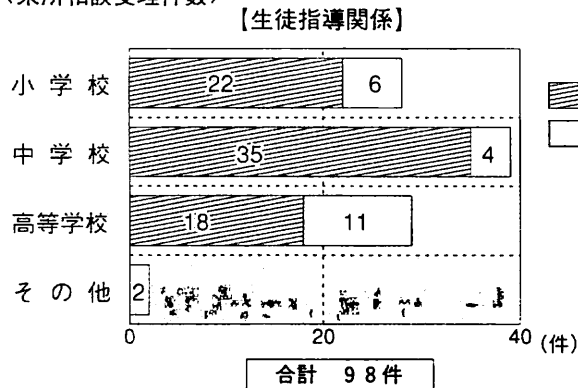
新学習指導要領では、基本的な事項の一つとして、「子供一人一人の個性を生かす」、「個に応じた指導の充実」などが示された。このことは、様々な悩みや問題を抱える子供への対応についても同様に求められていることである。

子供一人一人の状況を的確にとらえ、当センターが学校の担任及び保護者と共に歩調を合わせ、信頼関係を築きながら、問題の解決のために支援する役割を担っていききたいものである。

## 平成11年度 教育相談実施状況

（平成11年4月～平成12年1月）

〈来所相談受理件数〉



〈電話相談件数〉

幼児	小学校	中学校	高等学校	その他	合計
18	70	121	57	9	275

## 平成12年度の研修講座紹介と公開講演の案内

平成12年度の研修講座は、この3月に改訂される「秋田県教職員研修体系」に基づくとともに、すべての校種で告示された「新しい学習指導要領」の改訂の趣旨及び内容等に十分配慮しながら編成しております。

また、各学校や教職員のニーズを踏まえつつ、教育改革など国や県の教育課題にも応え得る講座内容となるよう、研修講座の改善充実を図っています。以下、特徴的な研修講座及び公開講演の内容を紹介します。

- ① この3月の「秋田県教職員研修体系」の改訂に伴い、高等学校の実習助手、特殊教育学校の実習助手・寮母の教職経験者（10年経過）研修講座が新設されます。
- ② 小学校の理科に関する基礎的な観察・実験の指導力向上をねらいとした、小学校理科教育研修講座「自信のつく観察・実験」が、これまでのC講座から新たにB講座に設定されます。
- ③ 養護教諭教職経験者（5年・10年経過）研修講座に、「学習指導案の作成と授業の実際」の講座内容が加わります。
- ④ 平成11年度に開設した「総合的な学習の時間」に関する研修講座は、さらに研修内容の充実を図ることをねらいとして、小学校、中学校・高等学校の2講座に分離設定されます。
- ⑤ 年次研修や職務研修をはじめ多くの研修講座で、「インターネット利用に関する」講座内容を設定し、学習指導の充実を図ります。

### ※【公開講演】について

多くの方々から注目されている公開講演は、平成11年度から、教職員だけでなく、広く県民の方々にも聴講いただけるようにしてあります。

6月2日	「子育てと人育て」	ガイ氏人形劇場主宰者 水田 外 史
6月9日	「時代の流れと現代の若者考」	秋田放送報道局長 依 本 悟
6月23日	「子供の成長と食生活」	秋田経法大短期大学部教授 田 中 玲 子
10月5日	「南極大陸とオーロラに夢をさせて」	山梨大学教授 竹 内 智
11月7日	「大きな耳と14の心」	NHKB日本語センターエグゼクティブアナウンサー 杉 本 泰 夫
11月14日	「ネットワークで拓く子供の未来」	大阪教育大学助教授 田 中 博 之

## ▶▶▶ 一年間の研修を終えるに当たって ◀◀◀

### 研修の中で学んだこと

研修員 川 村 真 弓

今年度、チームティーチング（以下TT）についての研究を行う機会をいただき、様々な角度からTTのよさを学ぶことができました。

子供の多様な個人差に対応する指導方法として、県内の多くの学校でTTが行われていますが、今後は、より効果的な運用を目指して、TTの日常化が求められるのではないかと考えます。学習集団を柔軟に編成することができる指導体制の在り方を探りながら、教師の意識改革のためにもTTが重要であることが分かりました。教師がお互いのよさや違いを認め合い、自己研修を深めようとする学校全体の風土・雰囲気こそ、一人一人の子供を大切に考える学校の土壌となるのではないかと思います。

また、様々な校種の先生方との出会いを通して、子供の成長を広くとらえ見守っていくことの大切さを知りました。

この一年間、多くの方々から学ぶ機会をいただいたことに感謝いたします。

### ありがとうございました

研修員 石 井 元

高学年の算数、特に人数の多い学級の授業で切実に感じることは、児童一人一人の様々な要求やつまずきに対応していくのは容易ではないということです。例えば、一口につまずきと言っても、あと一息で課題を解決できる児童もいれば、既習事項がすっかり身に付いていないために苦労している児童など様々です。このような場合に、何かよい支援の方法はないものかといつも考えていました。

幸い、一年間の研修の機会が得られ、まだまだ十分ではありませんが『分数』の学習を支援するソフトウェアの作成に当たり、完成させることができました。また、このソフトウェアを活用した検証授業では、このような支援に重点を置いた内容のソフトウェアの必要性を改めて感じたところです。しかし、課題も多いことから、今後さらに改良に努めたいと考えています。

貴重な研修の機会を与えてくださったことに感謝いたします。